

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特 許 公 報(B2)

(11) 特許番号

特許第6804404号  
(P6804404)

(45) 発行日 令和2年12月23日(2020.12.23)

(24) 登録日 令和2年12月4日(2020.12.4)

(51) Int.Cl. F I  
**B 6 5 D 85/07 (2017.01)** B 6 5 D 85/07  
**B 6 5 D 75/20 (2006.01)** B 6 5 D 75/20

請求項の数 7 (全 10 頁)

(21) 出願番号	特願2017-145348 (P2017-145348)	(73) 特許権者	000115108
(22) 出願日	平成29年7月27日(2017.7.27)		ユニ・チャーム株式会社
(65) 公開番号	特開2019-26295 (P2019-26295A)		愛媛県四国中央市金生町下分182番地
(43) 公開日	平成31年2月21日(2019.2.21)	(74) 代理人	110003247
審査請求日	平成31年3月1日(2019.3.1)		小澤特許業務法人
		(72) 発明者	小松 慎平
			香川県観音寺市豊浜町和田浜1531-7
			ユニ・チャーム株式会社テクニカルセン
			ター内
		(72) 発明者	柏木 政浩
			香川県観音寺市豊浜町和田浜1531-7
			ユニ・チャーム株式会社テクニカルセン
			ター内
		審査官	長谷川 一郎

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 吸収性物品の包装体

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

吸収性物品と、前記吸収性物品を個別に包装する個包装シートと、複数の前記吸収性物品を収容した包装シートと、を有し、

前記包装シートには、内部に収容された前記吸収性物品を視認可能に構成する窓部が形成された吸収性物品の包装体であって、

前記吸収性物品は、前記吸収性物品の厚み方向に積層されており、

前記包装体は、使用に伴い前記吸収性物品の残数が減ると、前記吸収性物品が厚み方向に膨張し、前記吸収性物品どうしの境界の間が広くなるように構成されており、

前記個包装シートは、第1個包装シートと、前記第1個包装シートと異なる色又は異なる図柄を有する第2個包装シートと、を有し、

前記第1個包装シートによって包装された吸収性物品と、前記第2個包装シートによって包装された吸収性物品と、が前記厚み方向に隣接しており、

前記窓部には、前記吸収性物品どうしの境界に沿う第1方向に延びる目印部が設けられており、

前記目印部は、前記第1方向と直交し、かつ前記厚み方向に沿う第2方向に間隔を空けて複数設けられ、前記吸収性物品どうしの境界の位置を指標しており、

前記目印部の前記第2方向の間隔は、前記第2方向において一定の間隔であり、前記吸収性物品どうしの境界の間隔と異なっている、吸収性物品の包装体。

【請求項 2】

10

20

前記目印部は、前記第 1 方向に延びる第 1 柄と、前記第 1 柄と前記第 1 方向において隣り合い、前記第 1 柄と異なる第 2 柄と、を含んでいる、請求項 1 に記載の吸収性物品の包装体。

【請求項 3】

前記第 2 方向に隣り合う前記目印部における前記第 2 柄の前記第 1 方向の位置は、異なっている、請求項 2 に記載の吸収性物品の包装体。

【請求項 4】

前記目印部の前記第 2 方向の間隔は、前記吸収性物品の前記第 2 方向の間隔に対する 0.5 倍以上 2 倍以下である、請求項 1 から請求項 3 のいずれかに記載の吸収性物品の包装体。

10

【請求項 5】

前記包装シート同士が接合された接合部が設けられており、

前記接合部は、前記吸収性物品の前記第 2 方向に沿って配置されている、請求項 1 から請求項 4 のいずれかに記載の吸収性物品の包装体。

【請求項 6】

前記包装シートは、前記厚み方向に沿い、互いに隣接する第 1 面及び第 2 面を有し、

前記第 2 面は、前記吸収性物品を取り出すための開口が設けられているように構成されており、

前記窓部は、前記第 1 面と前記第 2 面に設けられている、請求項 1 から請求項 5 のいずれかに記載の吸収性物品の包装体。

20

【請求項 7】

前記吸収性物品は、前記個包装シートと共に、前記吸収性物品の幅方向に沿う一対の幅折り線及び前記吸収性物品の長手方向に沿う一対の長手折り線を基点に折り畳まれている、請求項 1 から請求項 6 のいずれかに記載の吸収性物品の包装体。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、複数の吸収性物品を収容した包装シートに窓部を設けた吸収性物品の包装体に関する。

【背景技術】

30

【0002】

複数の吸収性物品を収容した包装シートに窓部を設けた吸収性物品の包装体が知られている。包装シートの窓部は、内部に収容された吸収性物品を視認可能に構成されている（下記特許文献 1）。

【先行技術文献】

【特許文献】

【0003】

【特許文献 1】特表2006-526550号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

40

【0004】

特許文献 1 の吸収性物品の包装体は、吸収性物品が包装シート内で厚さ方向に積層されており、窓部を介して複数の吸収性物品が視認可能に構成されている。吸収性物品の包装体は、一般的に複数の吸収性物品を圧縮した状態で包装シート内に収容している。このように構成された吸収性物品の包装体において、使用に伴い吸収性物品の残数が減ると、吸収性物品が厚み方向に膨張し、吸収性物品どうしの境界の間隔が広がる。しかし、積層された吸収性物品の全体が窓部を介して視認可能に構成されており、吸収性物品どうしの境界の間隔を把握し難いため、吸収性物品の残数を容易に把握し難い。

【0005】

そこで、包装シート内に収容された吸収性物品の残数を容易に把握できる吸収性物品の

50

包装体が望まれる。

【課題を解決するための手段】

【0006】

一態様に係る吸収性物品の包装体は、吸収性物品と、複数の前記吸収性物品を収容した包装シートと、を有し、前記包装シートは、内部に収容された前記吸収性物品を視認可能に構成する窓部が形成された吸収性物品の包装体であって、前記吸収性物品は、前記吸収性物品の厚み方向に積層されており、前記窓部には、前記吸収性物品どうしの境界に沿う第1方向に延びる目印部が設けられており、前記目印部は、前記第1方向と直交し、かつ前記厚み方向に沿う第2方向に間隔を空けて複数設けられている。

【図面の簡単な説明】

10

【0007】

【図1】第1実施形態に係る吸収性物品の包装体の斜視図である。

【図2】吸収性物品の展開平面図である。

【図3】吸収性物品の包装体の正面図である。

【発明を実施するための形態】

【0008】

(1) 実施形態の概要

本明細書及び添付図面の記載により、少なくとも以下の事項が明らかとなる。

一態様に係る吸収性物品の包装体は、吸収性物品と、複数の前記吸収性物品を収容した包装シートと、を有し、

20

前記包装シートは、内部に収容された前記吸収性物品を視認可能に構成する窓部が形成された吸収性物品の包装体であって、

前記吸収性物品は、前記吸収性物品の厚み方向に積層されており、

前記窓部には、前記吸収性物品どうしの境界に沿う第1方向に延びる目印部が設けられており、

前記目印部は、前記第1方向と直交し、かつ前記厚み方向に沿う第2方向に間隔を空けて複数設けられている。

【0009】

窓部を介して包装シート内部に収容された吸収性物品を視認でき、吸収性物品の残数や種類を確認できる。このとき、窓部の目印部が吸収性物品のどうしの境界に沿って延びているため、吸収性物品どうしの境界の位置を把握し易い。よって、吸収性物品どうしの境界の間隔を把握し易く、吸収性物品の残数を容易に把握できる。

30

【0010】

好ましい一態様によれば、前記目印部は、前記第1方向に延びる第1柄と、前記第1柄と第1方向において隣り合い、前記第1柄と異なる第2柄と、を含んでいる。

【0011】

吸収性物品どうしの境界は、第1方向に沿っており、第1柄と区別して認識されにくいことがある。このとき、第2柄によって吸収性物品どうしの境界を把握し易くなる。

【0012】

好ましい一態様によれば、前記第2方向に隣り合う前記目印部における前記第2柄の前記第1方向の位置は、異なっている。

40

【0013】

第2方向に隣り合う目印部は、第2柄の第1方向の位置が異なり、個々の目印部として認識され易くなる。個々の目印部が目立つことにより、吸収性物品どうしの境界の間隔がより把握し易くなり、吸収性物品の残数を容易に把握できる。

【0014】

好ましい一態様によれば、前記目印部の前記第2方向の間隔は、前記吸収性物品どうしの境界の間隔に対する0.5倍以上2倍以下である。

【0015】

目印部の第2方向の間隔が吸収性物品のどうしの境界の間隔に対する0.5倍以上2倍

50

以下であることにより、吸収性物品どうしの境界の間隔が目印部に対応付け易くなる。よって、吸収性物品どうしの境界の間隔がより把握し易くなり、吸収性物品の残数を容易に把握できる。

【0016】

好ましい一態様によれば、前記包装シート同士が接合された接合部が設けられており、前記接合部は、前記第2方向に沿って配置されている。

【0017】

第2方向に沿って接合部が配置されているため、膨張する際の力に接合部が対抗し、包装体全体の形状を維持し易くなる。よって、窓部の形状を維持し易く、窓部を介して吸収性物品の残数を把握する効果を得や易くなる。

【0018】

好ましい一態様によれば、前記包装シートは、厚み方向に沿い、互いに隣接する第1面及び第2面を有し、

前記第2面には、前記吸収性物品を取り出すための開口が設けられているように構成されており、

前記窓部は、前記第1面と前記第2面に設けられている。

【0019】

第1面に設けられた窓部を介して吸収性物品を視認することができる。加えて、使用者が開口部を介して吸収性物品を取り出す際に、開口部と共に窓部を視認し易い。よって、吸収性物品の取り出し時に吸収性物品の残数を容易に把握することができる。

【0020】

好ましい一態様によれば、前記吸収性物品を個別に包装する個包装シートを有しており、

前記個包装シートは、第1個包装シートと、前記第1個包装シートと異なる色又は異なる図柄を有する第1個包装シートと、

前記第1個包装シートによって包装された吸収性物品と、前記第2個包装シートによって包装された吸収性物品と、が前記厚み方向に隣接している。

【0021】

第1個包装シートによって包装された吸収性物品と、第2個包装シートによって包装された吸収性物品と、が厚み方向に隣接しているため、隣接する吸収性物品の境界を把握し易い。吸収性物品どうしの境界の間隔がより把握し易くなり、吸収性物品の残数を容易に把握できる。

【0022】

好ましい一態様によれば、前記吸収性物品を個別に包装する個包装シートを有し、

前記吸収性物品は、前記個包装シートと共に、幅方向に沿う一対の幅折り線及び長手方向に沿う一対の長手折り線を基点に折り畳まれている。

【0023】

吸収性物品と個包装シートが一対の幅折り線及び一対の長手折り線を基点に折り畳まれているため、折り畳まれた状態で折り線による折り癖が四方に形成される。四方の折り癖の一部は、窓部に対向して配置される。折り癖によって吸収性物品の輪郭が目立ちやすくなり、吸収性物品どうしの境界の間隔がより把握し易くなり、吸収性物品の残数を容易に把握できる。

【0024】

(2) 吸収性物品の包装体の構成

以下、図面を参照して、実施形態に係る吸収性物品の包装体について説明する。なお、以下の図面の記載において、同一又は類似の部分には、同一又は類似の符号を付している。ただし、図面は模式的なものであり、各寸法の比率等は現実のものとは異なることに留意すべきである。したがって、具体的な寸法等は、以下の説明を参酌して判断すべきである。また、図面相互間においても互いの寸法の関係や比率が異なる部分が含まれ得る。

【0025】

10

20

30

40

50

図 1 は、第 1 実施形態に係る吸収性物品の包装体 1 の斜視図である。図 2 は、吸収性物品の展開正面図であり、図 3 は、吸収性物品の包装体の正面図である。吸収性物品の包装体 1（以下、包装体 1 とする）は、吸収性物品 10 と、複数の吸収性物品 10 を包装する包装シート 20 と、を有する。

【 0 0 2 6 】

包装シート 20 内の空間に、吸収性物品 10 が複数収容されている。吸収性物品 10 としては、例えば、使い捨ておむつ、生理用ナプキン、失禁パッド、パンティライナーを例示できる。

【 0 0 2 7 】

図 2 は、実施形態に係る吸収性物品 10 の展開平面図である。吸収性物品 10 は、着用者の身体前側と身体後側とに延びる長手方向 L と、前後方向に直交する幅方向 W と、着用者に向かう肌対向面側及び肌対向面側と反対側に向かう非肌対向面側に延びる厚み方向 T と、を有してよい。

【 0 0 2 8 】

吸収性物品 10 は、吸収性物品の肌対向面側に位置する肌面シートと、吸収性物品の非肌対向面側に位置する非肌面シートと、肌面シートと非肌面シートの間に配置された吸収体と、を有してよい。吸収性物品 10 は、個包装シート 18 と共に折り畳まれて、個包装シート 18 によって包装されていてよい。

【 0 0 2 9 】

吸収性物品 10 及び個包装シート 18 は、個包装シート上に吸収性物品を配置した状態で、共に折り畳まれる。折り畳み態様の一例としては、個包装シート上に吸収性物品を配置した状態で、吸収性物品 10 及び個包装シート 18 は、幅方向 W に沿う一対の幅折り線 F W を基点に長手方向 L に折り畳まれてよい。このとき、吸収性物品の肌対向面同士が対向するように折り畳まれてよい。一対の幅折り線 F W は、長手方向 L に間隔を空けて配置されてよい。次いで、幅折り線 F W を基点に折り畳まれた状態の吸収性物品 10 及び個包装シート 18 は、長手方向 L に沿う一対の長手折り線 F L を基点に幅方向 W の内側に折り畳まれてよい。このとき、吸収性物品の肌対向面同士が対向するように折り畳まれてよい。

【 0 0 3 0 】

このように折り畳まれることにより、図 1 に示すように、吸収性物品 10 は、個包装シートによって覆われる。折り畳まれた状態で、吸収性物品の四方の側縁部には、個包装シートの折り癖が形成されてよい。四方の折り癖の少なくとも一部は、後述する窓部に対向して配置されてよい。

【 0 0 3 1 】

吸収性物品 10 は、包装シート 20 内において吸収性物品 10 の厚み方向 T に積層されてよい。包装シート 20 の表面は、包装体 1 の外面を構成し、包装シート 20 の裏面は、包装体 1 の内面を構成し、吸収性物品 10 に接触してよい。包装シート 20 は、樹脂製のフィルムからなり、直方形に成型されてよい。包装シート 20 は、直方形に成形された状態で 6 面を有する。包装シート 20 は、吸収性物品 10 の厚み方向 T（積層方向）に沿って配置された第 1 面 21、第 2 面 22、第 3 面 23、及び第 4 面 24 と、厚み方向 T と直交して配置された第 5 面 25 及び第 6 面 26 を有してよい。

【 0 0 3 2 】

図 1 に示す状態において、第 1 面 21 は、正面を構成し、第 2 面 22 は、上面を構成し、第 3 面 23 は、背面を構成し、第 4 面 24 は、底面を構成してよい。第 1 面 21 と第 2 面 22 は、互いに隣接し、第 2 面 22 と第 3 面 23 は、互いに隣接し、第 3 面 23 と第 4 面 24 は、互いに隣接し、第 4 面 24 と第 1 面 21 は、互いに隣接してよい。第 1 面 21、第 2 面 22、第 3 面 23、及び第 4 面 24 は、第 5 面 25 及び第 6 面 26 にそれぞれ隣接してよい。

【 0 0 3 3 】

図 3 は、図 1 に示す吸収性物品の包装体 1 の正面図である。包装体の正面は、第 1 面を

10

20

30

40

50

構成してよい。包装体 1 には、内部に収容された吸収性物品 10 を視認可能に構成する窓部 28 が形成されてよい。窓部 28 は、透明又は半透明に構成されてよい。包装シート 20 に窓部 28 が設けられていることにより、窓部 28 を介して包装シート 20 内部に収容された吸収性物品 10 を視認でき、吸収性物品 10 の残数や種類を確認できる。

【0034】

窓部 28 は、少なくとも第 1 面 21 の一部に設けられてよく、第 2 面 22 に設けられてよいし、第 1 面 21 から第 6 面 26 の全ての面に設けられてもよい。窓部は、各面の全面に設けられていても、各面の一部に設けられていてもよい。窓部 28 は、吸収性物品の厚み方向 T に沿って延びてよい。窓部 28 を介して吸収性物品の側縁部 15 が視認可能に配置されてよい。吸収性物品 10 の側縁部 15 は、一对の幅折り線 FW 及び一对の長手折り線 FL を基点に折り畳まれた状態で、当該折り線が位置する部分である。そのため、吸収性物品の側縁部 15 は、折り線による折り癖が形成される。吸収性物品の側縁部 15 は、第 1 面から第 4 面に対向して配置されてよい。吸収性物品の外側縁の少なくとも一部は、窓部に対向して配置されてよい。折り癖によって吸収性物品の輪郭が目立ちやすくなり、吸収性物品どうしの境界の間隔がより把握し易くなり、吸収性物品の残数を容易に把握できる。

10

【0035】

窓部 28 には、吸収性物品どうしの境界 B10 に沿う第 1 方向 D1 に延びる目印部 30 が設けられてよい。吸収性物品どうしの境界 B10 は、吸収性物品の幅方向 W 又は長手方向 L に沿ってよい。目印部 30 は、第 2 方向 D2 に間隔を空けて複数配置されてよい。目印部は、印刷によって構成されてよい。第 2 方向 D2 は、第 1 方向 D1 と直交し、かつ厚み方向 T に沿う方向である。目印部 30 は、窓部の全体に亘って間欠的に配置されてよい。なお、第 1 方向 D1 及び第 2 方向 D2 は、吸収性物品 10 が包装シート 20 内に収容され、未開封の状態の包装体 1 における吸収性物品 10 を基準とした方向であってよい。

20

【0036】

吸収性物品の包装体 1 において、使用に伴い吸収性物品の残数が減ると、吸収性物品 10 が厚み方向 T に膨張し、吸収性物品どうしの境界の間隔 G10 が広がる。このとき、窓部 28 の目印部 30 が吸収性物品のどうしの境界 B10 に沿って延びているため、目印部 30 を基準として吸収性物品どうしの境界 B10 の位置を把握し易い。目印部 30 は、第 2 方向 D2 に間隔を空けて配置されており、その間隔は一定であってよい。目印部 30 が一定の間隔 G30 を空けて配置されているため、目印部 30 が目盛りとして機能し易い。よって、吸収性物品どうしの境界の間隔 G10 を把握し易く、吸収性物品の残数を容易に把握できる。

30

【0037】

目印部 30 は、第 1 方向 D1 に延びる部分を有していればよい。目印部 30 は、第 1 柄 31 と、第 2 柄 32 と、の組みあわせによって構成されてよい。第 1 柄 31 は、第 1 方向 D1 に延び、第 1 方向 D1 に間隔を空けて配置されてよい。第 1 柄 31 は、第 1 方向 D1 に延びる直線又は、第 1 方向 D1 に沿って配置されたドットの集合体によって構成されてよい。第 2 柄 32 は、第 1 柄 31 と異なる。第 2 柄 32 は、第 1 柄 31 と第 1 方向 D1 において隣り合って配置されてよい。第 2 柄 32 は、第 1 方向 D1 における第 1 柄 31 の間に配置されてよい。第 2 柄 32 は、第 1 柄 31 と異なる図柄又は第 1 柄 31 と異なる幅（第 2 方向 D2 の長さ）を有してよい。

40

【0038】

吸収性物品どうしの境界 B10 は、第 1 方向 D1 に沿っており、第 1 柄 31 と区別して認識されにくいことがある。このとき、目印部 30 と吸収性物品どうしの境界 B10 が第 2 柄 32 によって区別し易くなり、吸収性物品どうしの境界 B10 を把握し易くなる。また、包装シート 20 内の吸収性物品 10 の残数が少なくなると、吸収性物品 10 が傾いて配置されることがある。このとき、吸収性物品どうしの境界 B10 は、第 1 柄 31 に対して傾斜し、第 1 柄 31 と区別して認識され易い。よって、吸収性物品どうしの境界の間隔 G10 がより把握し易く、吸収性物品の残数を容易に把握できる。

50

## 【0039】

第2方向に隣り合う目印部30における第2柄32の第1方向D1の位置は、異なってもよい。すなわち、第2方向D2に隣り合う第2柄32は、第1方向D1においてずれて配置されてよい。具体的には、図3に示す正面図において、一の目印部30の第2柄32は、一の目印部に隣接する第2柄32に対して上方に配置されてよい。第2方向D2に隣り合う目印部30の第2柄の位置が異なるため、個々の目印部が認識され易くなる。個々の目印部が認識されることにより、吸収性物品どうしの境界の間隔G10がより把握し易くなり、吸収性物品の残数を容易に把握できる。

## 【0040】

目印部30の第2方向D2の間隔G30は、吸収性物品どうしの境界B10の間隔G10と異なってもよい。目印部30と吸収性物品どうしの境界B10とを区別し易くなる。目印部30の第2方向D2の間隔G30は、吸収性物品どうしの境界B10の間隔G10に対する0.5倍以上2倍以下であってよい。吸収性物品どうしの境界B10の間隔G10に対して目印部30の第2方向D2の間隔が長すぎたり短すぎたりすると、吸収性物品どうしの境界の間隔G10が目印部30に対応付け難いことがある。よって、目印部30の第2方向D2の間隔G30が吸収性物品のどうしの境界B10の間隔G10に対する0.5倍以上2倍以下であることが好ましい。なお、吸収性物品どうしの境界B10の間隔G10は、吸収性物品10が包装シート20内に収容され、未開封の状態の包装体1における吸収性物品10を基準としている。

## 【0041】

包装シート20には、包装シート20同士が接合された接合部29が設けられてよい。接合部29は、包装シート20が熱溶着等によって接合された部分であり、包装シート20同士が接合されていない構成と比較して、剛性が高くてよい。接合部29は、高剛性を構成してよい。接合部29は、第2面22の中央において第2方向D2に沿って設けられてよい。

## 【0042】

複数の吸収性物品を圧縮した状態で包装シート内に収容している構成にあっては、吸収性物品10が厚み方向Tに膨張し易い。吸収性物品が膨張する際の力は、複数の吸収性物品の積層方向、すなわち、吸収性物品の厚み方向に沿う力が高くなり易い。第2方向D2に沿って接合部29が配置されているため、膨張する際の力に接合部29が対抗し、包装体1全体の形状を維持し易くなる。よって、窓部28の形状を維持し易く、窓部28を介して吸収性物品の残数を把握する効果をより得易くなる。

## 【0043】

包装シート20の第2面22は、吸収性物品10を取り出すための開口が設けられているように構成されてよい。具体的には、第2面22には、開口を構成するためのミシン目27が設けられてよい。使用者がミシン目を切断することにより、開口が形成されてよい。窓部は、第1面のみならず、第2面にも設けられてよい。使用者が開口部を介して吸収性物品を取り出す際に、開口部と共に窓部を視認し易い。よって、吸収性物品の取り出し時に吸収性物品の残数を容易に把握することができる。

## 【0044】

吸収性物品を個別に包装する個包装シート18は、複数のパターンを有してよい。複数のパターンは、色及び図柄の少なくとも一方が異なるように構成されてよい。例えば、第1個包装シートと、第1個包装シートと異なる色又は異なる図柄を有する第2個包装シートと、を有してよい。第1個包装シートによって包装された吸収性物品と、第2個包装シートによって包装された吸収性物品と、が厚み方向に隣接してよい。すなわち、厚み方向に隣接して配置された吸収性物品は、異なる色又は異なる図柄を有する個包装シート（異なるパターンの個包装シート）によって包装されてよい。個包装シートの色または図柄の違いによって、隣接する吸収性物品の境界を把握し易い。吸収性物品どうしの境界の間隔がより把握し易くなり、吸収性物品の残数を容易に把握できる。

## 【0045】

以上、上述の実施形態を用いて本発明について詳細に説明したが、当業者にとっては、本発明が本明細書中に説明した実施形態に限定されるものではないということは明らかである。本発明は、特許請求の範囲の記載により定まる本発明の趣旨及び範囲を逸脱することなく修正及び変更態様として実施することができる。したがって、本明細書の記載は、例示説明を目的とするものであり、本発明に対して何ら制限的な意味を有するものではない。

【産業上の利用可能性】

【0046】

包装シート内に収容された吸収性物品の残数を容易に把握できる吸収性物品の包装体を提供する。

10

【符号の説明】

【0047】

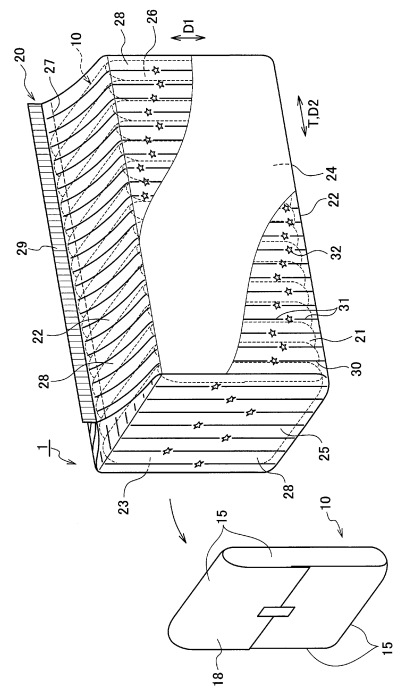
1 : 包装体  
 10 : 吸収性物品  
 15 : 側縁部  
 18 : 個包装シート  
 20 : 包装シート  
 21 : 第1面  
 22 : 第2面  
 27 : ミシン目  
 28 : 窓部  
 29 : 接合部  
 30 : 目印部  
 31 : 第1柄  
 32 : 第2柄  
 B10 : 境界  
 D1 : 第1方向  
 D2 : 第2方向  
 FL : 長手折り線  
 FW : 幅折り線  
 L : 長手方向  
 T : 厚み方向  
 W : 幅方向

20

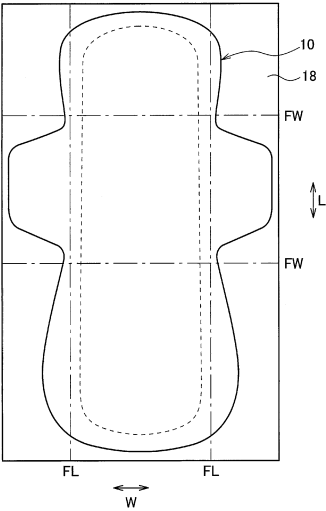
30



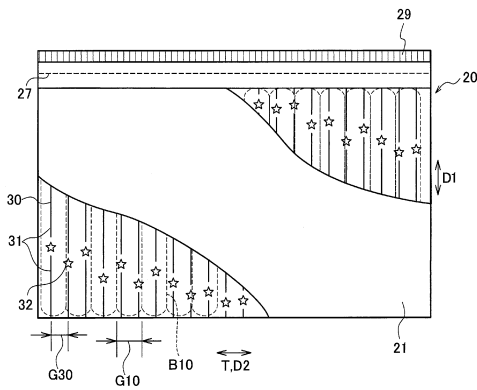
【図 1】



【図 2】



【図 3】



---

フロントページの続き

(56)参考文献 特表2000-513306(JP,A)  
実開昭60-070565(JP,U)  
特開2015-042561(JP,A)  
特開平09-306137(JP,A)  
特開2012-240703(JP,A)  
特開2012-254283(JP,A)

(58)調査した分野(Int.Cl., DB名)  
B65D 85/07  
B65D 75/20